

事業型予算要求システム

学校の創意を活かした教育を推進するために

教育課程と予算編成の一体化

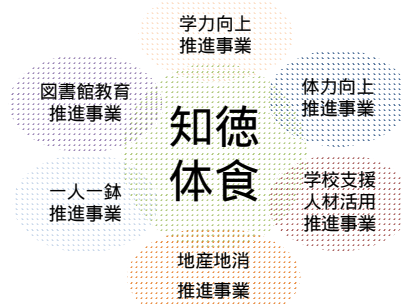
小林市では、平成19年度から、各学校の教育目標の実現のために、どんな事業を構築するかを問う「事業型予算要求システム」を導入しています。

各学校は、事業名、事業の現況、事業効果、予算費目等を記載したシートを次年度の予算要求書として教育委員会に提出します。

このシステムを運用することで、教育課程の編成と予算編成が一体化され、これまで以上に学校予算の有効活用を図ることができます。

また、学校予算の用途について、事業別に保護者等に説明責任を果たすことができるようになります。

学校教育目標と関連事業



先生の知恵やアイデアを活かす

夏季休業中に2回、全教職員を対象に「学校財務マネジメント研修」を実施して、学校教育目標の実現に向けて、先生たちの知恵やアイデアを次年度の予算要求に反映する取組を進めています。この研修会の中で、各学校における本年度の事業を評価・検証して、次年度の展開を検討・協議していきます。

第1回目の研修会では、各校務部で「取組のねらい」「期待される効果」を整理して、「次年度の展開」をまとめます。また、「新たな取組」が必要であれば、同様の流れでまとめます。

第2回目の研修会では、各校務部において前回まとめた事業評価シートを全教職員に説明して、各学年部の評価を受けます。この際、各学年において課題となる事項について整理するとともに、新たな取組や新規事業については、重点化作業を行います。

こうして、出来上がった事業評価シートをもとに、事務職員が各校務部や学年部と連絡調整しながら、次年度予算要求書の下案を作成していきます。

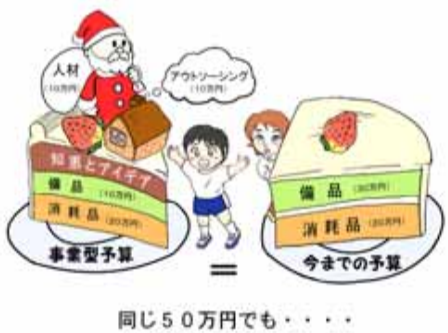
事業評価シート 図書館教育推進事業 平成21年度予算 100万円

取組内容・経費	取組のねらい	期待される効果	次年度の展開	学年評価(課題)
図書の充実 図書費 90万円	読書意欲の向上や読書機会の充実	学力の向上を図るとともに豊かな情操を育むことができる。	A B C D 読書教育が本校の重点事項であり、10%程度の増額が必要。財源は両面印刷の徹底やペーパーレス化の推進で対応する。	A B C D 課題
コーティング謝礼金 5万円 アメニティコート 5万円	図書の補強及び教師の事務負担軽減	図書の耐久性を高めるとともに、教師が子どもと向き合う時間を確保できる。	A B C D	A B C D 課題
新たな取組				重要度→高 中 低 課題

評価の観点及び記入要領

- A 効果が高く、拡充が必要
- B 効果が高く、継続が必要
- C 効果が低く、見直し・改善が必要
- D 効果が低く、抜本的な改善・廃止が必要

- Aの場合 具体的な拡充方策、必要経費、財源確保の取組等を記入
- C、Dの場合 見直し・改善案を記入



平成22年3月 日 宮崎県教育委員会発行

学校財務マネジメント?

学校財務マネジメントとは、前年度の予算要求に基づき、本年度展開している各種事業について、評価を実施するとともに、次年度の事業を構築して、予算要求に反映させるというPDCAサイクルにより、「事業型予算要求システム」を有効に機能させる手法です。

宮崎県教育委員会では、学校事務・業務の効率化及び学校運営に関する支援を行うことを目的として、学校事務の共同実施を推進しています。今回は県内各地の様々な取組の中から、小林市スクールサポートセンター(略称:SSC)の活動について紹介します。SSCは、小林市内小学校11校、中学校8校の事務職員21名で構成する学校事務の共同実施組織です。小林小学校に事務局を置いて、小林市教育委員会と連携・協働しながら、子どもたちの豊かな学びをサポートするために、「ひと、もの、かね」を活用したさまざまなシステムを学校に提供しています。

SSS シシシシ 2 2 2 2

学校間ネットワークシステム

子どもたちのすてきな出会いのために



毎月教室に新しい本がやってくる! 学校・ボランティア・SSCの連携協働システム!

SSC文庫回覧システム

学級単位で1セット(約30冊)にした図書を小学校間で毎月回覧するシステムで、現在約3000冊の本が市内全小学校で回覧されています。SSC文庫は、学校・地域ボランティア・SSCの連携・協働した取組で進められています。

図図を見観薦すす子は?

各小学校の予算の一部をSSCに配分して、図書を共同購入しています。このことで、小規模の小学校でも、少ない予算で多くの図書に出会えることになります。



図図の登登やややシややや作作は?

SSCのスタッフに加えて、保護者や読み聞かせボランティアの方々のご協力をいただいています。



Network

学校で活用実績のある専門的な人材情報を提供

学校支援人材活用システム

各学校が所有するビデオ教材を一発検索

視聴覚教材共有システム



Network

各学校のCDラジカセの一斉点検・修理・提供

視聴覚機器リサイクルシステム



Network

市内の教職員が作成した指導資料の共同活用

指導資料共有システム

学校サポートシステム

教室から学校の動きが一目瞭然

グループウェア機能によるコミュニケーションの活性化

校務情報共有システム

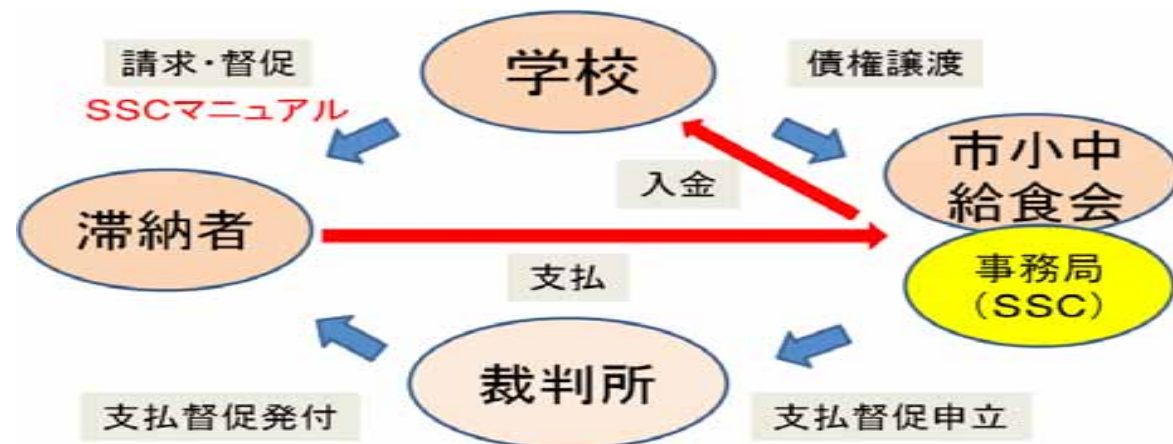


教室のパソコンから、学校行事や来校者、連絡事項、欠席届、職員動静等の情報を閲覧することができます。また、グループウェア機能を活用して、学校内外の文書情報を関係職員に配信したり、市内教職員間でメールのやりとりをしたりすることができます。このシステムを運用することで、ペーパーレス化や諸会議の精選及び教職員の事務負担軽減を図ることができます。平成22年4月からの本格稼働を目指して、ICT事業所と共同開発を進めています。システムについては、市販されることとなりますので、他市町村での導入も可能になります。

SSCで給食費滞納者への裁判訴訟手続き

給食費滞納者への対応に係る学校の事務負担軽減

学校集金サポートシステム



先生と向き合う時間を大切にするために

教室で楽々簡単に名簿作成

パソコンにデータが残らない校内サーバー運用システム

児童生徒情報管理システム



教室のパソコンで、児童生徒名簿、名表、登校班名簿、清掃班名簿、名前シール、住所タックシール、指導要録、全課程修了者名簿を簡単に作成したり、出力したりすることができます。このシステムを運用することで、児童生徒情報の適正管理や危機管理体制の充実を図るとともに、教職員の事務負担軽減を図ることができます。平成22年4月からの本格稼働を目指して、SSCで開発を進めています。システムについては、小林市SSCのホームページからダウンロードすることができます。

教室から集金業務を追放

給食費、教材費、PTA会費等の自動振替による一元管理

学校集金総合管理システム



給食費、教材費、校外活動費、PTA会費等の保護者負担経費について、毎月の集金額（自動振替）を費目別に振り分けて管理します。このシステムを運用することで、教室で現金を取り扱うことがなくなり、学級担任等の事務負担軽減を図ることができます。また、保護者にとっても、子どもに現金を持たせる不安がなくなるとともに、年間を通じた計画的な支出ができるようになります。ICT事業所と共同開発したシステムで、現在、小林小学校と小林中学校で運用しています。

SSCでアンケート集計業務をサポート

オープンソースソフトの活用によるマークシートの作成・集計

アンケート集計サポートシステム

